



もうこうばらさいと

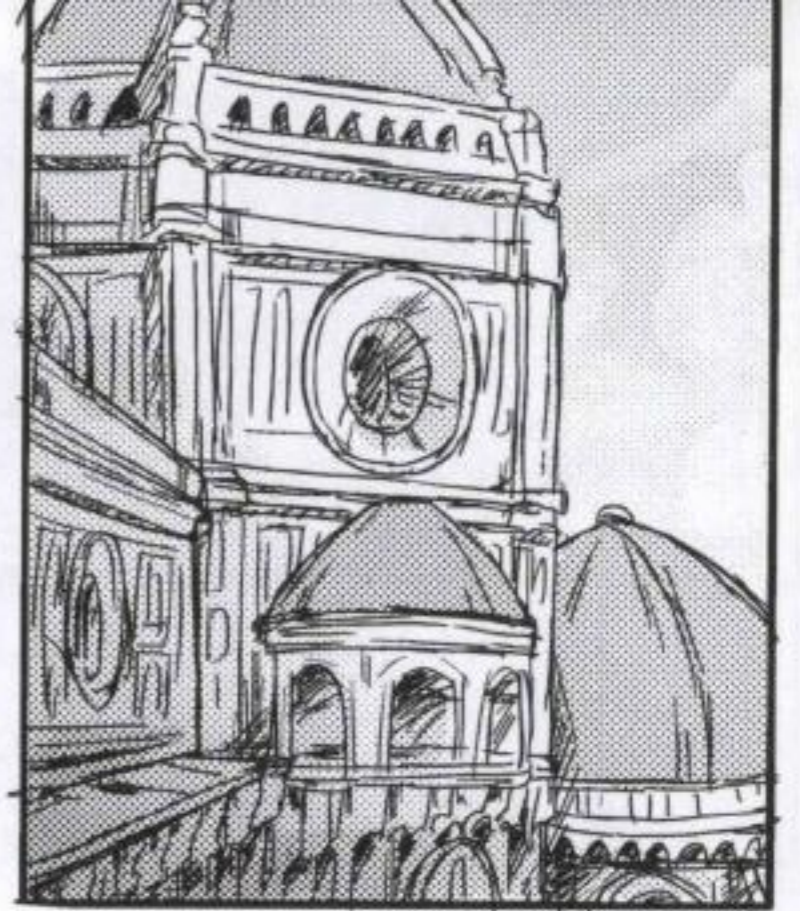
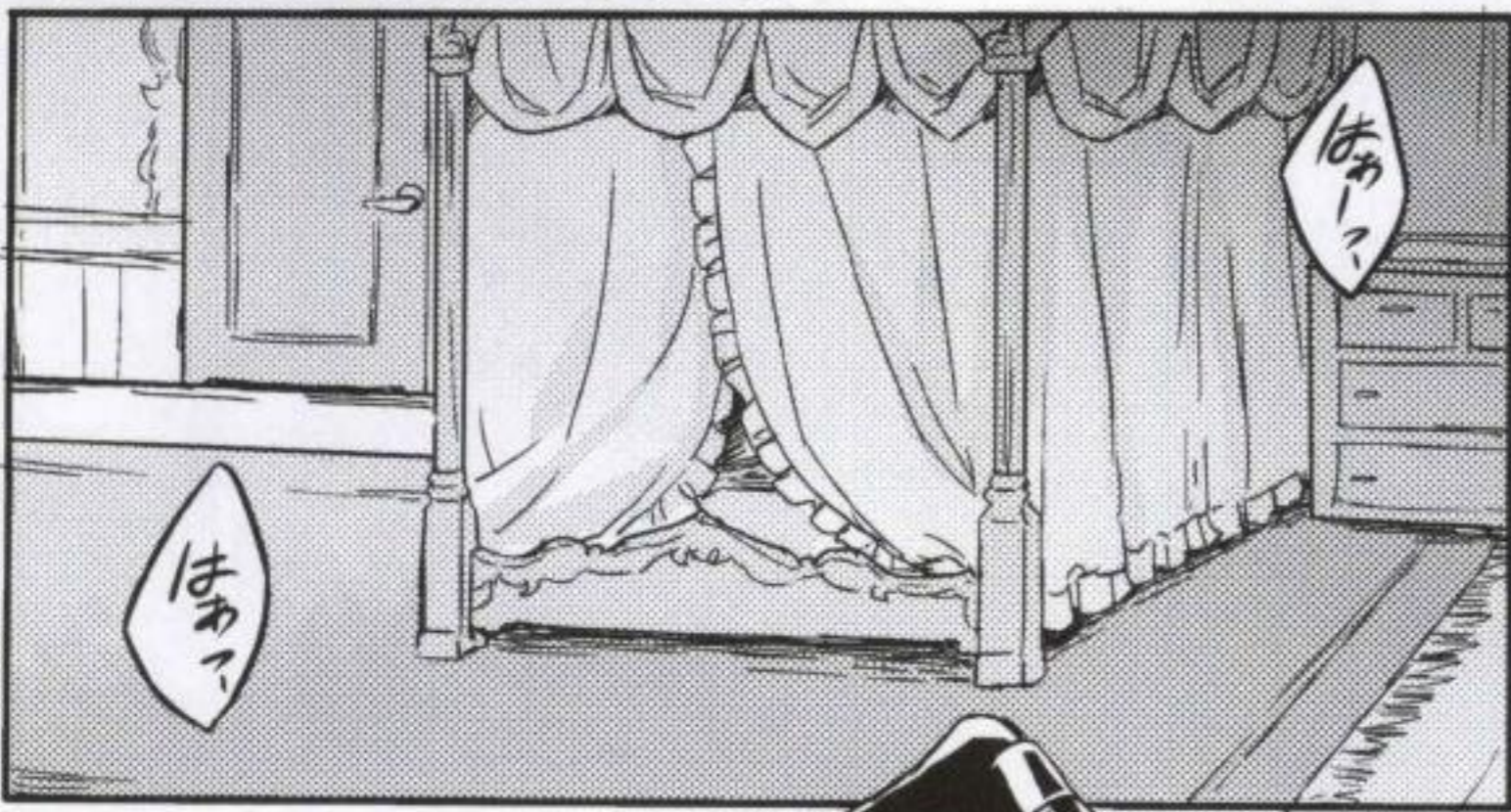
猛攻刻闘王

ガリナちゃん

DOJIN
R18
成人向け

聖闘士星矢Ω 同人誌
貧乏ゆすり超特急 / モチマコ

18歳未満の
購入・閲覧禁止





つい、遊んでみたくなってしまったのではないか……。

全く、あいつが自分で使ってみればよいなどとほざくから……。



パラドクスの匂い……。

あの女には手を焼いてばかりだ。



んが

じゅる



ふん。しかし、人間共の下らぬおもちゃも、

悪くは無いな。



ちやあ

ん……

——
そうだ。



……随分と、ご無沙汰しているな。

はあ

あつ



なあタイタン。

この状況を理解できぬほど、
世間知らずなわけでも
なからう。



ガリア、

貴様、
何を、

さす

さす



それとも、

私が何を求め、
何を望み、
何をなそうとしているか、

理解できぬほど、
無知で無垢な
お子様なのかな？



血迷ったか貴様、

いいから
任務に戻



これ
なあーんだ♪



な、な、
な、な、

貴様それをどうで！

ふふ、
やはりタイタン
貴様だったか。

いけないなあ、
書庫にしまうならもっと
上手に隠さない。

私のような悪意ある者に
目敏く見つけられて、
擲楡の恰好の餌食にされるぞ？



ところで、
貴様はこれをどうして
いたのかなあ。

お子様なタイタンくんが
趣味で集めてたのかなあ？

それとも、
タイタンくんの愛しの女神
パラス様に読み聞かせて
寝かしつけていたのかなあ？

四天王の他の二人や
貴様の配下共が知れば
どんな顔をするの
かなあ？

くっ
……



キラ



いい体を
している。



ゴッ



ガバリ



利口で
宜しい。

……



どうなって
いるのかな。

さて
タイタンくんの
こころは、

これは
返してやろう。



あの馬鹿な小娘に
心酔している貴様の事だ。

私のような
大人の女では勃たぬ
少女愛者かと思っていたぞ。



ほう、

少しばかり
心許ないが、
一応勃つんだな。



口を慎め
ガリア!

パラス様は
.....



そうであろう
.....?



タイタン。

余計な情を抱くなど
下らぬ事よ、



我らはその女を
利用しているに
過ぎぬ。

すべては偽りの
忠義である事を
忘れるな。

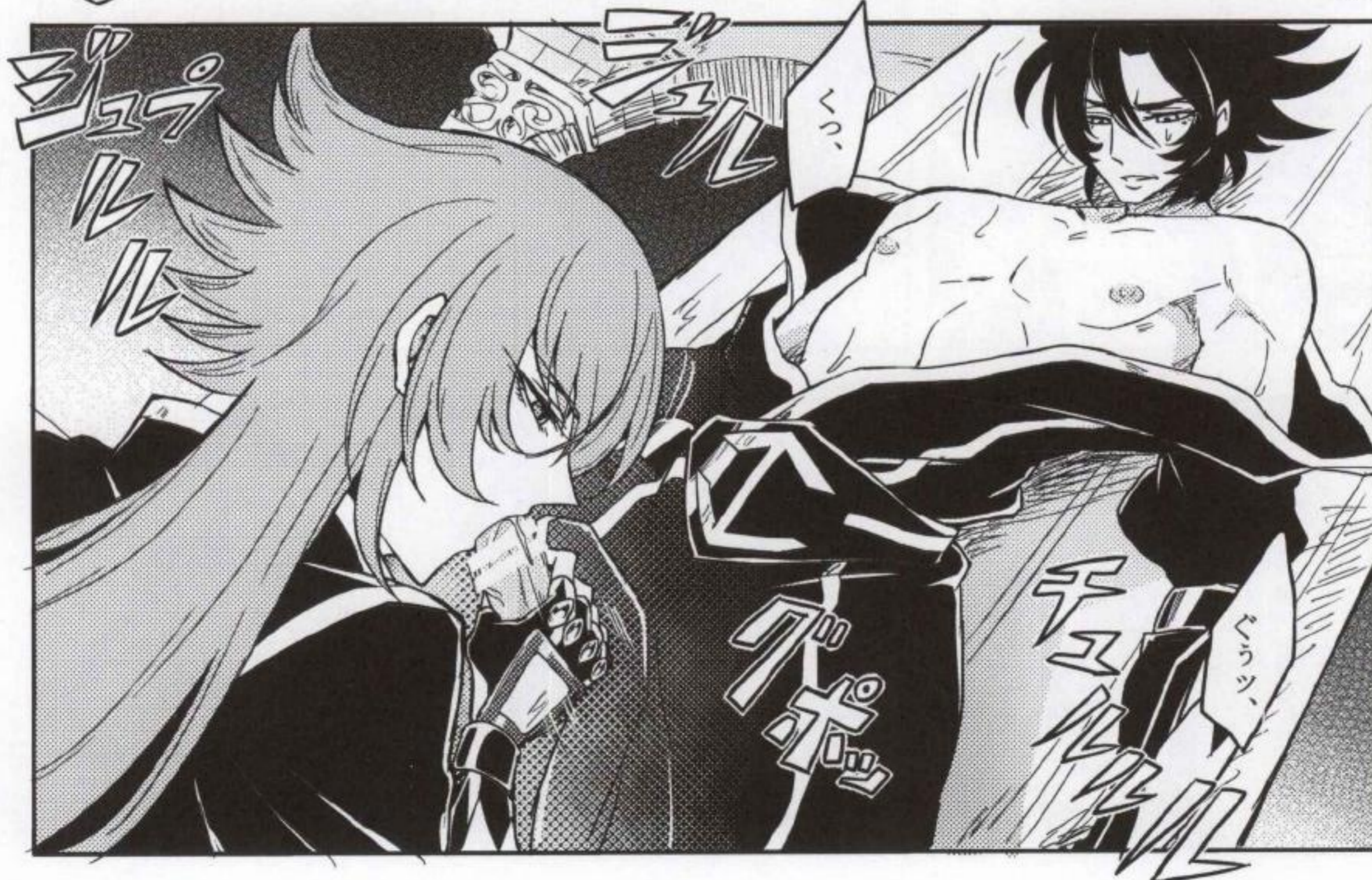


大事な大事な
パラス様の顔でも
思い浮かべている。

ふん、
貴様のような腑抜けは、
そうやって無意味な苦悩を
繰り返していればよい。



あッ!







ガリア——ッ！



探したぞ、ハイペリオン。

ガリアか。

お前がわざわざやってくるとは珍しい。

俺に何の用だ。



ハイペリオン、

ぼ

私と遊べ。



ふん、

話が早くて助かるぞ。



わからぬか。

私を満足させると言っているのだ。



何のつもりだ。



なあに、
10分と要らぬ。

準備なら
出来ている。

今すぐにでも
入れてくれて
構わんのだぞ？



余計な
お世話だ。

だが貴様の
そういうところは、
嫌いじゃないぞ。
ハイペリオン。



男を誘うのなら、
もっと上手に
やるべきだな。



……はあ。

それが
物を頼む態度か。

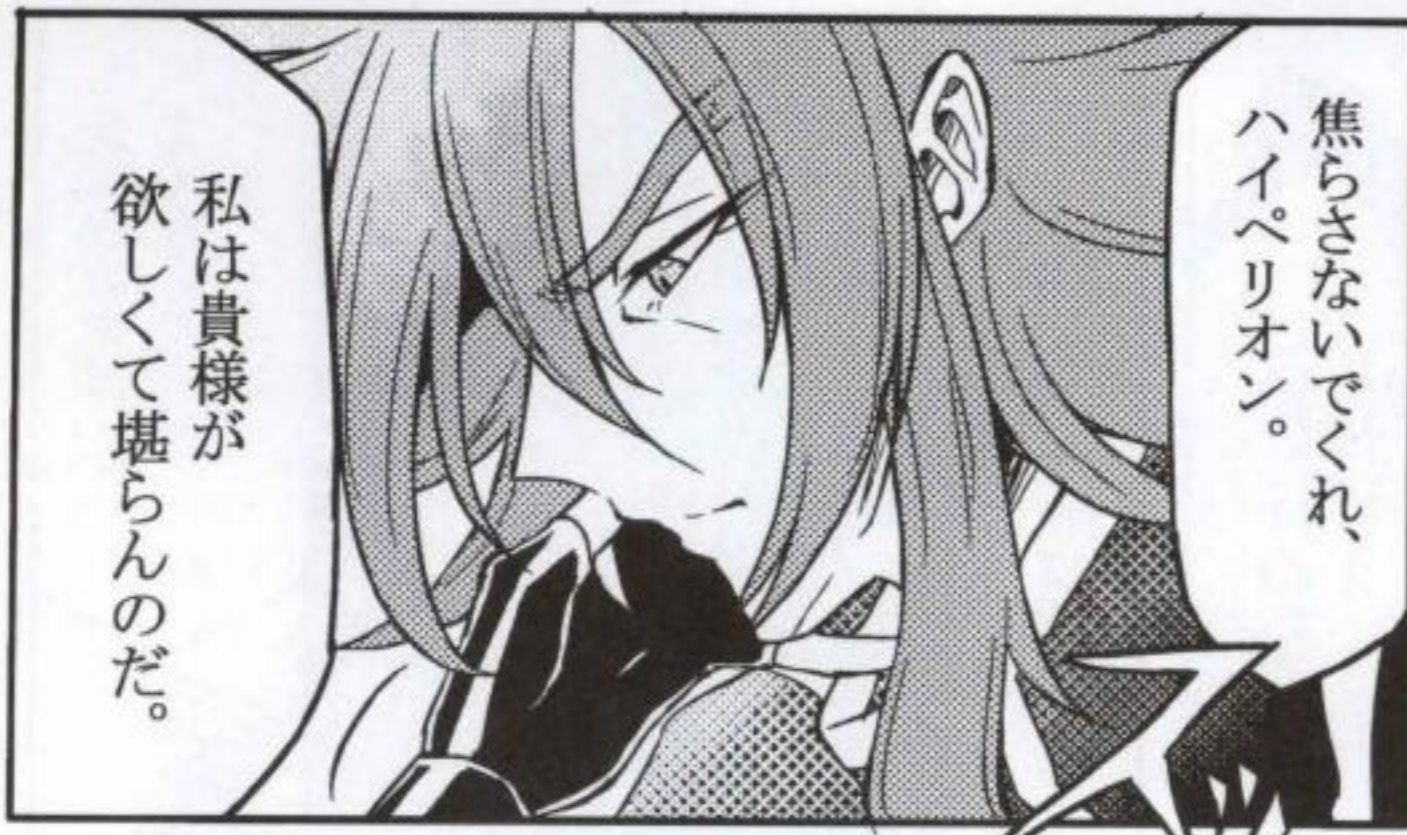


溜まって
いるのだな。

はあ、

十分濡れていたが、
少しやっただけで
これだ。









グッ
グッ
気遣って
くれるのか?



はあああつ、
ああ、
はあ、
ピクッ
ピクッ



ぎゅっ



それにしても、
はあッ、
いいものを
持っているな、
ハイペリオン。
ダニッ
ダニッ

大きくて、
遅しくて……、

は、
あッ!

ッ……、
カリが張って、
中が削られて
いるようだ。



これだけの大きさの
男を受け入れるのは、
久々であった
だけの事だ。

軽く、
イツてしまった。

ぎゅっ



なんだ貴様、
私を淫売だとも
思っているのか?

クッ
クッ
このような公の場で
いきなり股を開く女は
普通ではない。



これが、
欲しかった。

よく、
見えるだろう。

ああ、
はあッ、



お前こそ強く締め付けて
きているではないか、
ガリア。

クッ
クッ
こんなことをしている
女のものとは
思えないくらいにな。

クッ
クッ



ふ、ふふ。そうか。
手段を選んでいる余裕など
なかったものでな。

今はどうしても貴様に
貫かれたかったのだ、
ハイペリオン。

次はベッドの上でも
誘ってやれば、

もっと素直に
私を求めてくれるのかな？



さあな。
お前の真意が
汲めぬ内は。

今も何かを
企んでいる
のだろうか？

ほう？

はっ♡

やはり貴様には
お見通しと言う
わけか。

撫でられた
……！

だが、

私の想いにも
嘘はないぞ。



口を貸せ、

ハイペリオン。

そんなものまで
求めるか？

お前は。

イイコトを
教えてやる。





んっ
……♡
少し、大きくなったぞ。
やはり貴様ら
何かあるな？

だが貴様は今私の中だ。
私も奴も咎める事は
出来ぬぞ？



……
言われる
までもない。
そのような
つもりもない。

あの子は
パラドクスにしたように、
手荒な真似をして
及んだのではなからうな。



仮にも女だぞ
私は？

安心しろ、
貴様のタイタンには
傷ひとつつけてはいない。

……で、
奴とはどういう関係
なのだ……ふふ。

この
ホモ野郎が。

……女で遊んでいる
お前に言われるのは、
心外だな。



はあっ、

ああっ、



あっ、

あ、

ふふ、

ゴゴゴ



イキそうか？



イイザマだなあ
ハイペリオン。

構わぬ、

中に出せ。

まじ

成す術もなく
果てるがよい。







アイガイオン。

貴様の事を
すっかり忘れていたぞ。



そう言わずに
私に付き合え。



……。
何の事だ、
ガリア。

それに、

机は座るもの
じゃあない。



人間に感け、

神より賜りし聖剣に
いち早く傷を
つけおつて。



なあアイガイオン？



貴様のよような小物を
四天王最後に
とつておいたのは、

やはり
間違いだったな。



まあよい。
それはそれで
楽しみ甲斐がある。

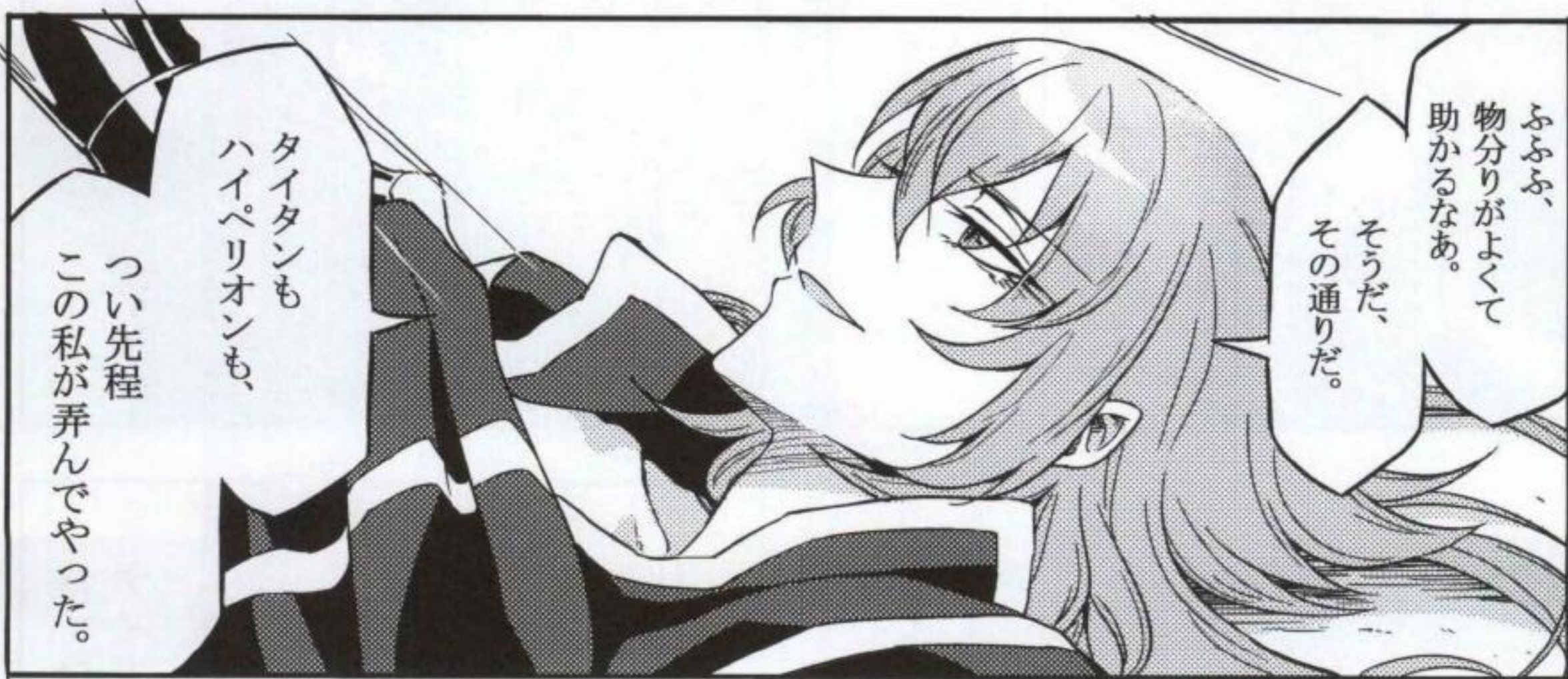
ちやる。

そうだなあ、
貴様には――

大人しい
ではないか。

やはり四天王一
容易い男だな貴様は。







きた

き

貴様何を

痛ッ

はた



ならば話は
早いな。



好きにさせて
頂こうか。



男をあまり
なめるものじゃあ
ないな。

俺とも
やりたいのだろう？



貴様ッ

私の
許可なく

ふ、
なかなか可愛らしい
ものを持っているな。



待て待て待て
アイガイオン！

そうでは
ない、

私は、



!?



ならばこちらを
使うほかないな。



前は使用済みと
言うわけか。



オほっ、



やめ、
やめろそっは、



はあああッ♥



女らしい
可愛い声で
鳴けるではないか。

俺もその気に
なってきたぞ。

後ろも
好みと見た。



安心しろ、

よーく
解してやる。

ふ、
そんな目で
俺を見るな。





やわらかいな。
使い込んで
いるのか？

何を、



そろそろ
頃合だろう。

ひ……。

まっ！



全然小物などでは
ないではないか！



そんなもの
入るわけ、

あっ
ああっ



おっ

だがよい
締めりだ

おッ

絡み付いて
離さん。



ぎっ

やはり根元までは
入りきらんか。

いぎッ

ぎっ

おああッ



随分な
乱れっぷりだなあ
ガリア。

ほ

はっ

あぐッ

そんなにいいか?

おおほおッ

おおッ



はっ

犯される貴様も
美しいぞ、ガリア。



おあッ
あッ

貴様ア、
よくも……!

ホロ
ホロ

ぎい



弄ぶのは好きでも、

弄ばれるのは
気に食わんか?

ガッ



出すぞ。

そら、

あああああ!!!



ふう、
うむ。

良い使い心地
だったぞ。

ガリア。



はあ、

あああああッ……!



次が
あるなら、

そうだな。

貴様の好きなように
させてやろう。



ふざけるな貴様!
よくもこの私に、

まんざらでも
なかったような顔だが?



くっ……!

ア



だがこれに懲りたら、

あまり遊びすぎないことだ。



所構わず致すような真似を繰り返している、

貴様のその悪癖が、あのお方に知られてしまうかも知れないぞ。

ガリア。



ああ、そうだ。

次からはもう少し隠れるようにするんだな。



フ



おっ、

おぼえていろーっ！



~~~~!!

カあ



……面白い女だ。



悪癖とはなんだ  
悪癖とは。

私を多淫か何かだとでも  
思っているのか。



アイガイオンの  
奴め……。

脅かすような事を  
言いおって。



中も  
洗い流したが……。

ハイペリオンのが  
残っている気がするな。

……



……  
まあでも

あいつらも悪くは  
なかったかな。



……。



んっ……



あのお方が  
お戻りに  
なられたそうだとぞ。

きゃっ



ヒューン

ドッ



なんでも、  
「直接話したい兵がいた」  
……とかなんとか。

びよ  
びよ



あのお方……  
何故サターン様が  
……？

ドッ  
ドッ



貴様ら、

それは本当か。

うっ、  
うわわっ!?

ガリア様  
なんと  
お姿で!?

ここは我々雑兵の  
使用している個室  
ですよ!?



ところで、

我が神が  
お戻りになられたと  
いうのは事実  
なのだろうな。

は、  
我々も  
噂話でしか……。



急ぎの用が  
あったのでな。

ホ

ホ

近場のここを  
借りたまでの話だ。



そうか。

しゅん



どうやら、  
単なる噂という  
わけでもなさそうだぞ。

私自身消耗していて  
気付かなかったが、  
神の小宇宙を  
微弱ながら感じる。



ガリア様、  
どちらへ?

おっ!

ホ



私はサターン様より  
直々に光臨刻衣と聖剣を  
賜りし誇り高き戦士、

刻闘士四天王一角  
「武神光臨剣のガリア」  
なのだからな。

お会いしに行く  
ほかなかろう。

「ガリア」

「猛攻刻闘士ガリアちゃん」

- END -



サターリン様ふ〜

このあと  
滅茶苦茶  
セツクスした。



GALLIA-CHA  
GALLIA-CHA